



学び、
持ち帰り、
発展させる

雄飛

第52号 2026. 8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 山内 正樹 編集責任者：担当副会長 安藤 睦男 制作・編集：第52期中央会みらい委員会



鳥取県西部中小企業青年中央会
第52期会長 山内 正樹

【所属企業・役職】 (有)サンユービルド
代表取締役

【入会年度】 H26年7月 (H26年度)

【中央会経歴】

H27年度 副委員長
H28年度 会員拡大プロジェクトリーダー
H29年度 会員拡大担当理事
H30年度 委員長
R01年度 県出向理事
R02年度 委員長
R05年度 専務理事
R06年度 副会長
R07年度 監事



鳥取県西部中小企業青年中央会

ご挨拶

鳥取県西部中小企業青年中央会第52期会長を務めさせていただきます山内正樹と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当会は設立から半世紀を超え、新たな時代に歩みを進めようとしています。近年では世界情勢の煽りを受け物価高騰に歯止めが効かず、またAI技術の急激な発展により社会構造や経済活動は大きく変化してきました。このような時代背景に呑み込まれることなく、率先して次の時代に挑んでいくことが青年経済団体の本来あるべき姿と考えています。

地域社会における青年経済団体の在り方も問われる中、次の時代を見据えた活動と運営を模索していく一年にしています。しかしながら単に自分達がやりやすい事ばかり行っているのは会の「らしさ」は失われます。先輩方が「英知・友愛・団結」の綱領を軸に昭和、平成、令和と激動の時代の荒波を乗り越えてこられた歴史を忘れることなく、時代に挑み「らしさ」を進化させていく。そのような思いを胸に第52期のスローガンを『原点』といたしました。55周年、60周年、さ

らにはその先も存続する会となるよう、会員と共に会を盛り上げてまいります。

活動テーマは『学び、持ち帰り、発展させる』といたしました。活動のなかで学ぶことは多数ありますが、学んだことを持ち帰り所属企業や地域社会の発展に繋げることで初めて学びと言えます。当会としては当たり前のことではありますが、今期は敢えて活動テーマとして掲げ、各事業に取り組んでまいります。さらに、その学びの場は勝手に存在するわけではなく、我々会員で作上げる必要があります。自らが汗をかき、時には恥をかきながら学びの場を築き上げ、自身の成長と共に所属企業と地域社会の発展に寄与することを目指します。

会員同士がお互いへの敬意を忘れることなく、また決して萎縮することなく議論を重ねるなかで軸の太い会となるよう、舵を取ってまいります。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。



学び、持ち帰り、発展させる



委員長・副会長ごあいさつ



総務委員会

委員長 藤原 直之

(南)サンワ 常務取締役

第52期総務委員会の委員長を務めさせていただきます藤原と申します。委員会テーマを「積土成山×貫徹始終」とさせていただきます。総務委員会の事業は一つ一つの気づき(おもてなし)をメンバーで積み重ね、事業の目的を共有し、最後まで共有した気持ちを忘れずに取り組むことにより、事業の成功へ繋がると思っております。

山内会長のテーマにある「学び、持ち帰り、発展させる」の「学び」は、まずは事業に出席しなければ何も得られません。基本的に決められた事業が多い総務委員会ですが、いかにやりがいを感じていただき、中央会に出たいと言っていたらいいか。ここを工夫して1年間尽力致しますので、どうぞよろしくお願い致します。



総務委員会

副会長 田本 真大

山陰酸素工業(株) 安来支店LPガス課課長

第52期副会長を拝命いたしました田本真大と申します。藤原委員長と仁宮副委員長が率いる総務委員会を担当させていただきます。藤原委員長はじめ委員会メンバーの想いを体現できるよう精一杯努めて参ります。

私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、今まで以上に柔軟な発想と果敢な挑戦が求められています。しかし、その一方で変えてはならないものもあります。伝統を守るだけでは発展はなく、変化を追うだけでは本質を見失います。第52期山内会長が掲げられたスローガン「原点」を胸に、原点を見失うことなく挑戦を続け、会員の皆様とともに成長できる一年にしたいと思っています。よろしくお願いいたします。



政治行政委員会

委員長 松井 翔次郎

(南)渡部 社長室室長

このたび、第52期政治行政委員会の委員長を務めることとなりました。委員会テーマには「知行合一～まずはやってみよう～」を掲げています。知識を得るだけで終わらせず、自ら考え、行動に移してこそ学びは力になると考えるからです。

経済安全保障やサプライチェーンなど、地域企業を取り巻く環境は大きく変化しています。活動を通じて、政治・行政の動きを身近な課題として捉え、会員が自社や地域の未来を考えるきっかけをつくってまいります。また、委員会で得た学びを実践につなげ、共に成長する一年を目指します。

委員長として仲間の意見に耳を傾け、失敗を恐れず、まず一步を踏み出します。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



政治行政委員会

副会長 大江 史紀

(株)島津組 不動産事業部 部長

この度、政治行政委員会の担当副会長を拝命いたしました大江史紀と申します。

今回は、松井委員長を中心に、委員会メンバーの皆様と力を合わせながら、実りある委員会運営に努めてまいります。また、会長が掲げられた活動テーマ「学び、持ち帰り、発展させる」を委員会活動の中で体現し、参加された皆様が学びを自社へ持ち帰り、それぞれの企業の発展につなげられる機会を創出していきたいと考えております。私自身も、副会長として委員長をしっかりと支え、円滑な委員会運営に尽力するとともに、委員会メンバーの皆様と共に成長できる一年にしたいと思っています。一年間、何卒よろしくお願いいたします。



地域ビジネス委員会

委員長 大川 大樹

(株)Lightning 代表取締役

第52期地域ビジネス委員会の委員長を拝命しました大川大樹と申します。当委員会の委員会テーマとして、「Stay Gold」～輝き続けろ！としました。

我々現役会員が輝きを放つこと、その輝きが当会だけではなく、所属企業、ご家庭、そして地域を照らす灯りになることをイメージし、灯りをともし続ける活動をしていきたいと思い今期のテーマとさせていただきました。

委員会活動として、西部地区の地域ビジネスの将来性の検証を軸に活動してまいります。

異業種だからその多角的な視点を共有していきたいと思っています。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。



地域ビジネス委員会

副会長 下村 英一

山陰建設サービス(株) 統括部 次長

このたび、第52期副会長を拝命いたしました下村英一です。大変光栄に思うとともに、その責任の重さを感じており身が引き締まる思いです。今回は大川委員長、本池副委員長が率いる地域ビジネス委員会を担当させていただきます。個性あふれる委員会メンバーとともに活動できることを大変嬉しく思います。

そして、山内会長が掲げられたスローガン「原点」のもと、中央会がこれまで大切にしてきた価値観や、人としての在り方を受け継ぎながらも、時代の変化を恐れず新たな挑戦を重ね、会員一人ひとりがやる気と誇りを持って活動できるよう副会長として務めてまいります。

中央会がこの先も発展し続けるために、まずは52期を全力で駆け抜けてまいります。皆様のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



中央会みらい委員会

委員長 仲佐 大志

(株)あしがる 代表取締役

第52期中央会みらい委員会の委員長を拝命致しました仲佐です。中央会みらい委員会では50周年のフューチャービジョンで上がった『おもっしえそうだけれん、やったらいいや』を基に今後の中央会の在り方を模索検討、実施していきたいと考えております。主には広報の担当となりますが、広報だけではなく、委員会、例会、役員会等が時代に合わせたより良い方向に向かい、中央会が5年、10年と継続して行ける様に1年考えてみたいと思います。色々と進める中で現役の皆様やOBの皆様の意に沿わない事ももしかしたらあるかもしれません。しかし、まずはやってみようとの想いで進めて行きたいと思いますのでどうぞ1年間宜しくお願い致します。



中央会みらい委員会

副会長 安藤 睦男

山陰フェンス工業(有) 代表取締役

第52期副会長を拝命いたしました安藤睦男と申します。平素より関係各位ならびにOBの皆様には、当会の活動に格別のご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。このたび副会長という大役を仰せつかり、大変光栄に存じます。第52期山内会長のスローガン「原点」を胸に、仲佐委員長、安田副委員長をはじめ中央会みらい委員会の皆様と切磋琢磨しながら、歴代OBの皆様が築かれた歴史と伝統を大切に受け継ぎ、山内会長を支え、より良い中央会づくりに全力で取り組んでまいります。微力ではございますが、一年間、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

申し上げます。

直前会長・専務理事・参与・会員拡大担当理事 ごあいさつ



直前会長

住 真介

住法律事務所 代表弁護士

第52期直前会長の住真介です。
昨年度は、第51期会長として、会員の皆様をはじめ、多くの皆様に温かいご支援とご協力を賜り、無事に一年間の職責を務めることができました。改めて心より御礼申し上げます。
第52期は直前会長として、山内会長が掲げる方針や目標の実現に向け、会長経験を生かしながら、その活動をしっかりと支えてまいります。
役職は変わりましたが、当会のさらなる発展のために尽力したいという思いは変わりません。一会員として、一委員会メンバーとして、中央会活動に引き続き全身全霊で取り組んでまいります。会員の皆様とともに実り多い一年を築けるよう努めてまいりますので、今期もどうぞよろしくお願い申し上げます。



専務理事兼会計担当理事

景山 貴司

株式会社カミナリ 広告プランナー

この度52期の専務理事兼会計担当理事を拝命しました景山と申します。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。専務理事兼会計担当理事という会の運営において重要な役職を担うことに責任とプレッシャーを感じておりますが、受けたからにはやり遂げる覚悟でございます。山内会長を支え、会員全員が52期は良い一年だったと思えていただけるよう邁進してまいります。また、専務理事は所属委員会がありません。委員会という学びの場がない分、専務理事でしか得ることのできない学び、経験をしっかりと積み重ね、一年間通して自己研鑽をしてまいりたいと思います。まだまだ頼りない専務理事かもしれませんが、皆様にサポートしていただきながら成長してまいりたいと思います。



参与

中村 友紀

株式会社サンイントウエイ 代表取締役社長

昨年度は大変お世話になりました。本年度も引き続き参与を拝命いたしました中村です。どうぞよろしくお願い申し上げます。
49期に会長を務めさせていただいてから3期目を迎えました。社会情勢や当会を取り巻く環境は刻々と変化し、これまでの常識も変わりつつあることを実感しております。変化への柔軟な対応と、受け継がれてきた伝統を大切にしながら、微力ではございますが当会の発展に貢献してまいります。
また、本年度は卒会年度となります。これまでの感謝を胸に、「自分に何ができるのか」を常に問い続け、最後まで精力的に活動してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会員拡大担当理事

宮本 久士

株式会社カーロード山陰 工場長

このたび会員拡大担当理事を拝命いたしました宮本です。現在会員数の減少が叫ばれる中、会員拡大という大役に少なからずプレッシャーも感じておりますがその反面、多くの方々と出合いを楽しみにしております。中央会の魅力は業種の垣根を越えて真剣に議論を交わし、地域に根ざした事業を行なう事で自己研鑽、ひいては所属企業の発展に繋がっていくことだと感じておりますので、その魅力をより多くの方々に発信出来るよう活動してまいります。今期もビジネス交流会を開催し、外部との繋がりを増やす機会を企画、展開してまいります。仲間を増やし、さらなる中央会の発展に尽力してまいりますので、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

県出向役員ごあいさつ



県出向理事

俵 陽介

株式会社石田コーポレーション 松江支社 支社長代理 兼 ライフライン事業部 部長

第52期県出向理事を務めさせていただきます俵陽介と申します。親睦情報委員会として親睦事業の実施及び会報「はばたき」の作成を担当させていただきます。
今期スローガン「感謝」のもと、本会を築き支えてこられた諸先輩方や関係者の皆様への感謝を胸に活動してまいります。人との出合いやつながりを大切に、会員同士が親睦を深めながら学び合い、成長できる環境づくりに努めてまいります。東部・中部・西部の交流を通じて、自社の発展と会のさらなる繁栄につなげられるよう尽力してまいります。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



県出向理事

川口 慎司

株式会社葬仙

第52期県出向理事を拝命いたしました川口慎司です。昨年度は委員長を務め、多くの学びと経験を得ることができました。その経験を生かし、県出向理事として他地区会員との架け橋となれるよう努めてまいります。県のスローガンである「感謝」のもと、人とのつながりや役職をいただいたことへの感謝を忘れず、西部の良さを積極的に発信するとともに、他地区の優れた取り組みや考え方を積極的に学び、持ち帰ることで、今後の活動へつなげていきたいと考えています。一年間、多くの出会いと学びを大切にしながら、責任と誇りを持って全力で楽しみ、全力で取り組んでまいります。



県出向理事

児玉 誠博

株式会社イーサポート 代表取締役

この度、県出向理事を拝命いたしました児玉誠博と申します。
昨年は、地区の委員長として県事業に参加させていただきましたが、県役員の皆様の考え方や県事業に対する熱い想いを強く感じた一年でした。今期、初めて県役員を務めさせていただきますが、他地区の皆様としっかり連携を図り「参加しなきゃではなく参加したい」と感じていただける、そんな魅力溢れる事業を作り上げていきたいと思っております。やるからには目標を高く掲げ、全体出席率過去最高を目指し、取り組んでいきたいと思っておりますので、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



県出向監事

足立 駿

足立ふとん店 米子店 店長

この度、県出向監事を拝命いたしました足立駿と申します。
10年前、第42期に初めて出向した際は、他地区の先進的な取り組みや考え方に触れ、多くの刺激を受けました。限られた交流機会の中での事業構築は苦労も多かったですが、その経験は今の私の大きな糧となっております。
現在、会員数は当時より大きく減少しましたが、だからこそ東部・中部・西部の垣根を越え、一つとなって共に学び合う重要性が高まっていると痛感しています。今期で卒会年度を迎えますが、県事業の魅力会員の皆様しっかりと伝えられるよう、自身の経験を次代へ繋いでいきたいと考えております。一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度通常総会『英雄』から『原点』へ



令和8年7月16日、通常総会・卒会式が行われた。冒頭、第51期住会長から「総会をよく寄港と船出に例えられる。おかげで第51期も王道を歩み寄港することができ第52期の山内丸が船出となる。皆様で第52期を盛り上げていただきたい」と挨拶があった。続いて社会福祉法人大徳会のタ永会員がこのたび入会となり「この会に早く貢献できるようになりたい」と意気込みを語った。その後の総会では第51期の事業内容の概略と決算報告、第52期の事業計画と予算案が議案となりそれぞれ満場一致で可決された。続く特別功労賞の発表では第50期永井会長が選出され「中央会に入って15年3か月経った。今こうしていただけるのは中央会と会員の皆さんのおかげだと思っている。本業ではできないチャレンジをさせてもらえる場は貴重だった。ありがとうございました」と挨拶があった。続いて会員拡大表彰があり個人では恵比木会員、安藤会員、長谷川会員、新井会員、松田会員、山根会員が表彰され、優秀賞は総務委員会、最優秀賞は発信・地域の力委員会であった。続く委員会表彰では優秀委員会が政治行政委員会、最優秀委員会は発信・地域の力委員会がそれぞれ表彰され、第51期がここに締めくくられた。

〈記事：高田〉



懇親会



総会・卒会式に続き、ご来賓、OB会員、現役会員合わせて総勢114名で懇親会が開催されました。

冒頭、山内会長より今期のスローガン『原点』、テーマ『学び、持ち帰り、発展させる』について発表があり「昨今の物価高騰やAI技術の急激な発展により社会が変化する中、激動の時代への対応が必要であり、綱領を基本とした伝統の継承を心に刻み、従来の価値にとらわれず、時代に合わせて進化させながらも原点を忘れないよう活動していきたい」と述べられました。

来賓代表挨拶では伊木隆司米子市長より住直前会長、山内会長へ向けた挨拶があり、続いて鳥取県団体中央会会長岩崎陽一様より52期に向けた力強いお言葉をいただきました。新OB会長に就任された北口OB会長の乾杯で懇親会が盛大にスタートしました。

懇親会は終始盛り上がり、ライブキッチンと題した会員企業によるスペシャルビュッフェや新役員・卒会者の紹介、中央会応援団及び新

令和8年度 卒会式

通常総会に続いて卒会式が行われ、松田 順次 会員(H21年入会)、永井 拓末 会員(H22年入会)、恵比木 健 会員(H27年入会)、小坂 泰彦 会員(H28年入会)、安達 信彦 会員(H28年入会)、青戸 和功 会員(H28年入会)、中西 悠介 会員(H28年入会)の7名が本日をもって卒会された。第51期 住 会長より卒会者へ卒会証書と記念品、花束が贈呈され、祝辞を述べられた。続いて卒会者代表挨拶として松田 順次会員より現役会員へ「約16年と長い間中央会に携わってきた。今後OBとなるがどんどんOB会員を頼ってもらいたい。」との言葉が贈られた。最後に卒会者より当会に対し目録贈呈があり、卒会者を代表して中西会員より住会長へ目録が贈呈された。チャペルの厳かな空気の中、未来への誓いを新たにす素晴らしい卒会式となった。

〈記事: 松原〉



入会員によるエールアトラクションが行われ、第52期山内会長年度の船出を後押ししました。

そして盛況の中、鳥取県西部総合事務所の荒田すみ子様より中締め挨拶をもって懇親会は閉会となりました。

ご臨席賜った皆様のおかげをもち、当会52期最初の事業が華やかに開催することができました。

〈記事: 徳中〉





令和8年度鳥取県中小企業青年中央会 通常総会・祝賀会 開催



令和8年7月27日、ホテルニューオータニ鳥取にて鳥取県中小企業青年中央会、令和8年度通常総会が開催された。冒頭、第51期 徳田県会長より一年を振り返り、とっとり楽しみん祭をはじめとした各県事業への協力、そして県事業を通じ、東中西の垣根を越え「一つに」なる事ができたと感謝の言葉を述べられた。次に、第1号議案～第3号議案まで決議を行い、「異議なし」のかけ声のもと満場一致で承認となった。最後に第52期 古川県会長より議案承認について謝辞が伝えられ通常総会が閉会となった。

続いて会場移動後、来賓の方々をお招きし祝賀会が開催された。古川新会長よりスローガン「感謝」が掲げられ今期にかける熱い想いを述べられると共に、華々しく52期のスタートが切られた。そして、ご来賓の方々からご挨拶をいただき、大樹生命保険株式会社 支社長 藤田様の乾杯で幕を開けた。アトラクションでは、鳥取県米子市を中心に活動する音楽グループが盛大に会場を盛り上げ、各地理事の52期に向けた力強い挨拶と意気込みを共有し、会場全体が一致団結する素晴らしい時間となった。懇親が深まる中、鳥取市副市長 松本様に中締めのご発声をいただき、終始盛り上がった祝賀会は幕を閉じた。

(記事：児玉)





第44回 全日本トライアスロン皆生大会

去る2026年7月19日、第44回全日本トライアスロン皆生大会が開催されました。

中央会からは今年も「チームTSC」(山根会員、石田会員、合原会員)が参戦し、最高気温33.9度の気温に加え、湿度の高い中、チーム一丸となって挑戦しましたが、残念ながら途中棄権となってしまいました。

また、年々会員もボランティアも減少する中、一人ひとりが何役もこなし、今年もボランティア部、マラソン部、AS部を運営しました。選手の皆さま、ボランティアの皆さま、お疲れさまでした！



お疲れさまでした！トライアスロン参加選手感想



山根 壮

(株)ヤマナ産機
常務取締役

今回、皆生トライアスロンにチームTSCで3名チームとして出場し、私はスイムを担当しました。全員揃ってのゴールはできず悔しい結果となりましたが、実際に大会へ出場したことで、皆生トライアスロンの厳しさと、完走することの難しさを身をもって感じることができました。沿道の声援や大会関係者の皆様のサポートには大きな力をいただき、改めてトライアスロンの魅力を実感しました。今回の経験を糧に、次回はチーム全員で完走できるよう、練習を重ねていきたいと思います。皆様応援ありがとうございました。



石田 倫章

(有)ペットショップパウ
管理部

今期は多大な応援とボランティア支援をいただきながら、完走できず申し訳ありませんでした。
走行開始から1時間程で普段のパワーが出せない事に気づき、粘りましたが110km地点で時間切れ濃厚となり、リタイアしました。怪我ではなく、特に理由のないバッドデイだったという表現になってしまいますが、練習の成果を出しきれず残念に思います。
また、トライアスロン中央会チームとして初のDNFを喫した責任を痛感しております。山内会長に、東山のゴールゲートを潜ってもらいたかった…
今回の結果を受け、そろそろ世代交代の必要性を感じてしまいました。次回大会に向けて、自分に替わる新たなバイク担当の会員が手を挙げ、チームに参加してくれる事を願います。



合原 悠貴

Rise システム
代表

まず初めに皆さん、今回はたくさんの応援ありがとうございました。そして完走できず申し訳ございませんでした。僕が走ることにしたのは今年1月にフルマラソンに挑戦したことがキッカケでした。山根さんに誘われた時完走はできませんよ。と言いつつも、2度悔しい思いはしたくない。絶対完走してやる。それだけを思い本番を迎えました。
ですが前回同様、体力は持つものの、ランナーズニーと言う膝の痛みが出始め、今回もダメか。そう思いながら、折り返しまでは！と走りました。正直この時リタイアを決めていました。ですが、会長をはじめ皆さんの声援に押され、まだ行ける！そう思いまた走り出しました。ですがすぐに膝が壊れて結果リタイア笑
2度悔しい思いを見事にしました。来年また挑戦する機会があればリベンジします！



第44回 全日本トライアスロン皆生大会を終えて

実行委員長
安達 信彦

(株)平設計
設計課長



第44回全日本トライアスロン皆生大会のボランティア活動大変お疲れ様でした。今大会は最高気温33.9℃、スタート時湿度75%を記録する蒸し暑い過酷な大会となり、完走率もAタイプは77.8%（前年75.6%）、Bタイプ75.3%（前年66.6%）リレー92.3%（前年83.7%）と昨年同様に低い水準となりました。選手、スタッフ、ボランティアの方々からも体調不良者が多く出ており、酷暑の中での大会運営に課題が多く出て来た大会となりました。それでも裏方として各所で頑張りをみせた会員の皆さんの力で大きな事故の無い大会として終える事が出来ました。

新OBとして肩の荷がおりた今は、これからも頑張ってくださいとしか言葉がありませんが、多くの面でこれまでのやり方が通じない時代となりました。青年経済団体として、一団体として出来る事は

限られていますので、横の繋がりを活かしつつ、行政とも連携を図りながら現状を打破していきましょう。

最後になりますが、皆さま本当にありがとうございました。

各部長感想



ボランティア部長
藤原 直之

(有)サンワ
常務取締役

第44回皆生トライアスロン大会のボランティア部長を務めました藤原です。まず当日ボランティアに参加していただきました皆様、そしてボラ部の経験が浅い私を支えていただいたボランティア部員の皆様、本当にありがとうございました。無事に大会を終えることができ、ホッとしております。中央会の中でもマラソン部、AS部と今までにないほど横の連携がうまくいった大会だったと感じています。来年以降もより横の関係を強固にしつつ、ALL中央会で臨むことが出来れば、もっと準備から運営まで楽しくできると思いますので、来年もよろしくお願い致します。ただ当日の至らなかった点はしっかりと反省し、ボラ部で共有して来年に活かしていこうと思います。



マラソン部長
安藤 睦男

山陰フェンス工業(有)
代表取締役

第44回全日本トライアスロン皆生大会の開催にあたり、マラソン部の運営にご協力いただきました会員ならびにOBの皆様に、心より御礼申し上げます。

大会当日は、早朝から猛暑の中にもかかわらず、多くの皆様にご参加いただき、選手への給水や誘導、安全管理など、それぞれの持ち場で責任を持ってご尽力いただきました。皆様の献身的な協力により、大きな事故もなく大会を無事終えることができました。

また、長年培われてきたOBの皆様の経験やご助言は、現役会員にとって大きな支えとなりました。この大会を通じて生まれた仲間との絆や経験を今後の活動にもつなげ、より良い大会運営を目指してまいります。

改めて、ご協力いただきましたすべての会員・OBの皆様に深く感謝申し上げ、御礼のご挨拶いたします。



AS部長
野口 健太郎

野口電工
代表

まずもって、第44回全日本トライアスロン皆生大会開催においてAS部の活動にご協力いただきました皆様ありがとうございました。今大会でも昨年と同様境港ターミナルASの担当となり、厳しい猛暑と湿度の中大きなトラブルも無く運営出来た事は、参加された皆様ひとりひとりが持ち場を責任持って対応していただいた結果だと思います。境港ターミナルでは、通常のAS運営に加え、記録部・医療部との協力やアイスバス運用、SPドリンクの対応や今大会より折り返しの対応等々となりますが、今年の反省等も踏まえ来年度以降も楽しく安全に運営出来るよう努めて行きたいと思っています。

改めて参加された皆様、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

新入会員から見たトライアスロン



政治行政委員会
藤山 智史

(株)リージョンデザインHD 取締役

これまでトライアスロンのボランティアや参加選手を応援する機会がなく、初めて肌で触れました。選手の皆様は老若男女問わず、自分と必死に戦う姿がとても美しく感銘的でした。ボランティアにつきましても想像以上に多くの方が献身的にサポートしていることで成り立っていることも深く理解でき、だからこそ大会の価値や伝統を守っていく必要があると心から感じました。来年以降も中央会の一員として貢献していきます。



地域ビジネス委員会
遠藤 高哉

(株)ケズホーム 常務取締役

全日本トライアスロン皆生大会のASボランティアスタッフとして参加しました。当日は猛暑の中、先輩方の的確な指示で準備が進み、選手を迎えた瞬間の拍手と歓声に大きな感動を覚えました。会員の皆さんと一日を共にし、交流を深めながら大会を支えられたことは貴重な経験となりました。選手として挑戦された会員の姿にも勇気と感動をいただき、来年も熱い走りを期待しています。

編集後記

いよいよ52期が始まりました。52期では中央会の広報活動を中央会みらい委員会が担当させていただきます。近年生産年齢人口が減少すると共に各経済団体でも会員減少が叫ばれています。そうした中で少人数でも活動出来る方法を1年間色々模索検討していきたいと思っております。至らない点等多々あるかと思いますが、1年間宜しくお願い致します。

(第52期中央会みらい委員会 委員長 仲佐 大志)

〈新入会員〉

政治行政委員会



ゆうながまさ
と 永 聖 士

社会福祉法人 大徳会 理事
兼 軽費老人ホーム 玉真園 施設長
社会福祉事業
〒689-3226 西伯郡大山町大塚717
☎ 54-2438 FAX 54-2393

R08.07(R08年度)入会
(推薦者) 大江(史)
徳中(太)

〈コメント〉新規入会致しました、(福)大徳会のタ永と申します。42歳での入会となりましたが、青年会活動を通じて学びを深め、地域活性化に少しでも貢献できればと思います。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。